③　解を視覚的にとらえさせるために，数直線上に表す習慣を付けさせる。

④　様々な条件下で解をとらえさせる。

（例）$x+4>3$ の解を次の中から求めよ。
ア　−2，−1，0，1，2　　イ　1桁の自然数　　ウ　数全体

(2)　不等式の性質の指導では

①　てんびんや数直線などによる視角的操作を利用し，時間をかけて理解させる。

②　まとめの段階などに自作問題作りを取り入れると理解が深まる。

（例）A＜Bとして，問題を生徒に作らせ，互いに解かせる(不等号を入れさせる)。

③　等式の性質と対比しながら，共通点，相違点を理解させる。(サクシードp14を再掲)

【等式の変形】	【不等式の変形】
①　両辺に同じ数を加減できる。	①　両辺に同じ数を加減できる。
②　両辺に同じ数を乗除できる。	②　負の数を乗除すると不等号の向きが変わる。
③　AB=0 ならば A=0 または B=0	③　AB>0ならば(A>0かつB>0)または(A<0かつB<0)

(3)　1次不等式の解法の指導では

（→中２で）

解法の手順をアルゴリズム化してまとめる。その際，方程式の場合と比較して共通点や違いに留意して，各手順の持つ意味を理解させることが大切である。

【１次不等式の解法のアルゴリズム】

①　$ax>b$ などの形に整理する。
　ア　分母を払う。
　イ　かっこをはずす。
　ウ　移項して整理する。

②　係数 a で割る。(割る数の正負に注意)

(4)　不等号の向きの誤り防止と高校への発展学習として，「境界点の考え」を用いてみる。

（→中２で）

境界点の考えとは，「方程式の成り立つ値が，不等式が成り立つ範囲の境界になっている」ということで，この考えは，高校の「不等式の表す領域」（数Ⅱ）へと発展してつながっている。

（例）　$2x-3>4x+2$

ア　方程式にして解き，境界点を求める。

　→　$2x-3=4x+2$　　∴　$x=-\frac{5}{2}$

イ　不等式に0を代入して，成り立つか成り立たないかを調べる。

　→　$2\times0-3>4\times0+2$　　これは成立しない。

ウ　不等号の向きを決定する。

　→　x は $-\frac{5}{2}$ を基準として
　　0を含まない範囲だから $x>-\frac{5}{2}$